




















(様式第2号)

# SDGs達成に向けた取組チェックリスト

・基本項目は23項目全てに、チャレンジ項目は23項目のうち5項目以上に具体的な取組を記載してください。  
 ・「企業」や「社内」とあるものは、NPO法人や個人事業主等はそれぞれの形態に応じて、読み替えてください。  
 ・これから取り組む項目については、取組内容の記載の前に、【予定】と記載し、これから取り組む予定の項目であることがはっきりと分かるようにしてください。

企業・団体等名 ( 日本航空株式会社 )

分類	NO	チェック項目	基本	チャレンジ	具体的な取組 (※事業者が記載する欄)	主なSDGs (17のゴールと169のターゲット) 関連項目																												
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17												
																																		
人権・労働	18	【公正な待遇】 ・雇用形態に関わらず、同一労働同一賃金等の原則に沿って対応している。	●		育児・介護など時間的制約のある社員も含め、最大の強みである社員一人一人が活躍できる職場づくりを目指し、労働時間の適正化、テレワーク制度の拡充を進めています。					5.5					8.5			10.2 10.3																
	19	【健康経営】 ・従業員が心身ともに健康を維持できるよう対策を講じ、生産性の向上等に取り組んでいる。	●		ESG戦略の中の健康経営も戦略の中核に据え、「JALウェルネス2025」を定め推進している。全社員、また職場を共にする委託先や協力先も含め、安全で安心して働ける職場環境を創るために「労働安全衛生管理活動」を着実に実行し、職場の安全確保、労働災害の防止に努めています。				3						8																			
	20	【DXの推進】 ・ICTやAIを活用したデジタル化等のDXの推進により業務の効率化やビジネスモデルの変革に取り組んでいる。		●	経済産業省、東京証券取引所および(独)情報処理推進機構より「DX銘柄2024」に選定され、整備分野での既存ビジネスモデルの深化と、新規ビジネスモデルの創出に対する取り組みなどが高く評価されています。										8	9.1		11	12															
	21	【労働環境改善に関する県の登録・認定】 ・労働環境改善に関する県の登録・認定を受けている。 (例) 鹿児島県女性活躍推進宣言企業、かごしま子育て応援企業、かごしま「働き方改革」推進企業		●	現時点では県の登録・認定に関し申請を実施していないので今後登録させていただいた上で鹿児島支店として認定を受けたいと思います。JALグループの外部評価は下記にあります。 <a href="https://www.job-jal.com/workstyle/welfare/">https://www.job-jal.com/workstyle/welfare/</a>				3	4	5				8			10																
環境	22	【廃棄物・有害化学物質の管理等】 ・関係法令に基づき適切に廃棄物や有害化学物質の管理及び処理に取り組んでいる。	●		「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」(PRTR法)に従って、有害化学物質を管理し、その取扱量の把握および排出量の削減に努めています。				3.9			6.3						11.6	12.3 12.4 12.5		14.1	15.1												
	23	【エネルギー】 ・電力やガソリンなど、自社のエネルギー使用量を把握し、その削減に取り組んでいる。	●		組織内のエネルギー消費量をHP上でESGデータとして公表するとともに、エネルギー消費量の削減や製品およびサービスのエネルギー必要量の削減にも取り組んでいる。								7.3							13														
	24	【温暖化対策】 ・自社の温室効果ガスの排出量を把握し、排出の抑制に取り組んでいる。	●		2050年CO2排出量実質ゼロの実現に向けたマイルストーンとして、2021年5月に本邦航空会社として初めて2030年度における具体的な目標(総排出量2019年度対比10%削減)を掲げ、アライアンスでのSAFの共同調達や機材更新時のESGファイナンス活用などに率先して取り組み、世界の航空業界の脱炭素化を推進してきました。また、2024年11月14日より鹿児島空港で使用するトイングトラクターにバイオディーゼル燃料を使用しCO2排出低減を進めている			2.4						7.2 7.3 7.a				12.4	13	14	15													
	25	【環境に配慮した製品等】 ・環境に配慮した製品の購入や製品の開発・製造に取り組んでいる(グリーン購入、かごしま認定リサイクル製品等)。	●		石油資源に依存しない、100%植物由来の「カネカ生分解性バイオポリマー Green Planet®」を活用している。機内ショッピングバッグや国際線エコノミークラスの食器においても、「Green Planet®」を活用し、使い勝手やデザイン性も考慮したものを製品化。											9.4			12.4 12.5	13	14	15												
	26	【生物多様性】 ・自社活動が生物多様性や生態系に悪影響を及ぼさないよう配慮している。	●		JALグループでは、取締役会が、気候変動・生物多様性に関する執行の取り組みに関し、定期的な報告(2023年度実績:4回)を通じて強い監督機能を発揮しています。							6.6										14	15											
	27	【3Rの推進】 ・ごみを減らし、資源を有効的に繰り返し使うため、発生抑制(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)に取り組んでいる。	●		JALグループ環境方針にもとづき、資源循環の観点からJAL独自の取り組みとして、客室乗務員が機内において回収・分別し、リサイクル会社などと連携して機内ごみのリサイクルを実現しています。								6.3				9.4		11.6	12.2 12.4 12.5	13	14.1	15											
	28	【水の管理】 ・自社の水の利用状況を適切に管理し、利用効率の改善に努めている。		●	使用量の多い整備部門では、部品を洗浄する水を浄水処理後に再利用を行い、手洗いによる機体洗浄で節水を実現しています。			2.4						6.1 6.3 6.4 6.6 6.b					11.5			14.1 14.2 14.3	15		17									
	29	【食品ロスの削減】 ・食品ロスの削減に取り組んでいる。		●	食品廃棄量を食品のカテゴリーごとに毎月モニターして分析を行う一方で、調理工程やサプライチェーン上の廃棄食品の循環再利用に取り組むことで、食料資源の有効活用を行っています。		1	2						6.4							12.3		14	15		17								
	30	【環境マネジメントシステム】 ・ISO14001、エコアクション21または同等の環境マネジメント規格を取得している。		●	機内食を提供するジャルロイヤルケータリング株式会社は、2021年にISO14001を取得し、2024年現在も認証を継続しています。					3.9				6	7						12	13.3	14	15										
	31	【環境情報開示】 ・環境の取組に関する情報を正しく開示している。		●	JALHP上ですべての情報を開示しております。 <a href="https://www.jal.com/ja/sustainability/">https://www.jal.com/ja/sustainability/</a>																12.6													
	32	【エネルギー効率の見直し・再生可能エネルギーの利用】 ・高効率機器の導入等によるエネルギー使用率の改善や再生可能エネルギーの利用や供給に取り組んでいる。		●	JALグループとしてもSAF利用のリーディングエアラインとなるべく、「2030年に全燃料搭載量の10%をSAFに置き換える」という目標を掲げ、官民で連携し、国内外のステークホルダーと協働してSAFの商業化に取り組んでいきます。																					7.1 7.2 7.3 7.a	9.4			13.1 13.3				
	33	【天然資源の持続的利用】 ・天然資源の持続的利用に配慮した調達に取り組んでいる		●	さまざまなアイテムを“Redesign”し、新規石油由来原料を使用しない持続的な素材へと転換しています。																						12.2	13	14	15				
	34	【森林資源の循環利用に向けた取組み】 ・植林等、持続的な森林利用への取組を推進している。		●	さまざまなアイテムを“Redesign”し、新規石油由来原料を使用しない持続的な素材へと転換しています。具体的には、認証紙、廃棄予定の認証農作物由来100%原料、100%再生プラスチックへの転換を行っています。																							6.1 6.3 6.6	9.4		11.3 11.4 11.5	12.2	13	15

# SDGs 達成に向けた取組チェックリスト

・基本項目は23項目全てに、チャレンジ項目は23項目のうち5項目以上に具体的な取組を記載してください。  
 ・「企業」や「社内」とあるものは、NPO法人や個人事業主等はそれぞれの形態に応じて、読み替えてください。  
 ・これから取り組む項目については、取組内容の記載の前に、【予定】と記載し、これから取り組む予定の項目であることがはっきりと分かるようにしてください。

企業・団体等名 ( 日本航空株式会社 )

分類	NO	チェック項目	基本	チャレンジ	具体的な取組 (※事業者が記載する欄)	主なSDGs (17のゴールと169のターゲット) 関連項目																								
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17								
環境	35	【海洋ごみ】 ・プラスチックの使用削減等海洋ごみの削減や、海洋汚染の防止に貢献している。		●	機内での使い捨てプラスチック削減に向けた取り組みを拡大しております。 <a href="https://press.ial.co.jp/ia/release/202211/007033.html">https://press.ial.co.jp/ia/release/202211/007033.html</a>																12.2			14						
	36	【環境に配慮した交通手段】 ・電車やバスなどの公共交通機関の利用や、電気自動車や水素自動車などの環境に配慮した自動車の使用を促進している。		●	JALは、鹿児島空港のある霧島市と連携し、CO2排出量削減への取り組みの一環として空港内作業車両であるトローイングトラクターにバイオディーゼル燃料濃度100%の「B100燃料」を、2024年11月14日より使用しております。																									
製品・サービス	37	【製品・サービスの安全性と品質確保】 ・製品・サービスの安全性や品質を確保する仕組みを構築している。		●	JALグループは、安全を大前提に、「世界で一番お客さまに選ばれ、愛される航空会社」を目指し、「定時性」「快適性」「利便性」の向上に取り組んでいます。 <a href="https://www.jal.com/ja/safety/quality/">https://www.jal.com/ja/safety/quality/</a>																									
	38	【ユニバーサルデザイン】 ・誰もが利用しやすいサービス提供や環境整備を行っている。		●	JALは既存のユニバーサルデザイン7原則に加え、私たち独自の3原則を付加することにより、JALユニバーサルデザイン10原則を設けております。																									
	39	【社会課題解決】 ・社会課題を解決するための製品・サービスの開発・展開に取り組んでいる。		●	ふるさと納税やJALグループのネットワークを通じ地域との共同開発商品（オリジナル商品）や特産品の発掘・販売などで地域振興に向けた商品をご提供しています。		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17							
社会・地域貢献	40	【地域への参画】 ・自治体活動や福祉活動、防災活動や寄付、ボランティアなど社会貢献活動に積極的に取り組んでいる。		●	奄美大島にて『JALアスリートアカデミー』を開催し、子どもたちにスポーツの楽しさやそれぞれの競技スキルの上達に向けたアドバイスを直接伝え、地域の皆さまとの交流を育むプログラムを実施しております。(一部紹介)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17							
	41	【地域資源】 ・地域産物等の地域資源を積極的に利用（地産地消等）している。		●	食料自給率の低下などの課題解決に貢献すべく、“空から、ニッポンフードシフト。”をコンセプトに、地産地消のガストロノミーツアーの推進、食と農の大切さを体感できる教育型ツアーの提供などに取り組んでいます。			2.3																						
	42	【インターンシップの受入れ等】 ・職場体験、インターンシップの受入れ、出前講座の実施など、地域の児童や学生に対し、学びの場を提供している。		●	鹿児島県においては鹿児島大学と連携し鹿児島空港に拠点を持つ日本エアコミューターにてインターンシップの受け入れを実施しております。					4					8.6			10.2												
	43	【若者の地元定着等】 ・若者の県内就職を促進する取組を行っている。		●	教育事業の一環として、就職セミナーやエアラインスクールなどを展開し、地元の航空・ホテル・サービス業界への就職へ誘導している。					4.4					8.5															
	44	【持続可能な観光の実現】 ・持続可能な観光（サステナブルツーリズム）の実現に寄与する取組を実施している。		●	持続可能な旅行および観光のための国際基準を制定・管理するグローバル・サステナブル・ツーリズム協議会（The Global Sustainable Tourism Council®、以下「GSTC」）にエアライングループとして世界で初めて加盟し、GSTCが持つ観光におけるSDGs品質に関する専門的な知見と世界に広がるネットワークを活用できるように取り組んでいます。											8	9				11	12				14	15			17
	45	【条件不利地域の振興】 ・条件不利地域（離島や中山間地域等）の振興に寄与する取組を実施している。		●	JALグループは県内離島路線への就航や誘客を通して離島振興に寄与しております。			2	3	4					7	8	9	10	11	12					14	15				17
46	【移住・交流の促進と関係人口の創出・拡大】 ・地域外からの移住・交流の促進や、関係人口（※）の創出・拡大に寄与する取組を実施している。（※移住した「定住人口」や、観光に来た「交流人口」ではない、地域や地域の人々と多様に関わる人々）		●	JALグループは、都市圏と地域の2つの拠点を行き来する新しい生活スタイル「二地域居住生活」を推進し、奄美群島における人流創出の取り組みの一環として、「二地域居住生活」の推進に向けた実証事業を開始しました。												8					11	12						15		17